

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701020		
法人名	有限会社 ケア・スマイル		
事業所名	グループホーム まきば		
所在地	青森県三戸郡大字豊間内字地蔵平 21-1		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の持っている力を最大限に引き出せるよう、コミュニケーションと対応に努め、生活の活性化により、生きているという喜びを持てるよう、日々のケアを通じて信頼関係を構築し、安心して暮らしていける支援に努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「利用者の自己決定に基づく家庭環境の提供・家族や地域との信頼関係の構築に努める」理念を掲げ、ホーム内の掲示やミーティングで周知し、共有している。町内会に加入し、清掃活動や除雪作業の手伝い等、地域の一人として関わり、五戸地域ケア会議構成員のメンバーとして毎月会議に出席し、地域の現状等を把握している。職員は、日々の業務で気がついた事は何でも話し、申し送り等で全職員が共有している。吸収率の優れた綿パンツの使用やホールのソファ、居室の家具配置等、積極的に改善に向けて取り組んでいる。職員が交代で調理を担当し、バラエティに富んだ手作りの食事を提供している。職員の異動が少なく、全職員が利用者に合わせてサービスを提供しようと取り組んでいる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成31年1月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、サービスに関する情報の共有について、ミーティングや研修、勉強会、回覧等を行っている。	「自己決定に基づく家庭的な生活環境の提供・地域との信頼関係を構築する」内容の理念を作成し、ホーム内への掲示やミーティングで確認する等、全職員へ周知・共有しており、利用者の自己決定を待つ支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内の清掃活動等を行っているほか、近隣の民家の除雪作業の手伝い等も行っている。	町内会に加入し、清掃活動への参加や一人暮らし世帯の除雪作業を手伝う等、地域の一員として関わっている。敬老会やクリスマス会には保育園児や婦人会の訪問があるほか、五戸祭りの際は山車が来て、地域の人と一緒に鑑賞している。また、中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学や認知症に関する相談、実習生、体験学習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて意見や要望があれば、すぐに対応するように努力している。	運営推進会議には自治会長や町担当課長、家族が参加し、2ヶ月に1回、開催しており、利用者の状態を家族に理解してもらえる良い機会となっている。会議ではホームの状況報告や勉強会、情報交換を行っており、委員の意見を引き出す取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、困難な事例や苦情に繋がる事例等の場合は解決を図り、利用者へ支援を行っている。	町から感染症情報を得たり、入居相談や困難事例の相談をする等、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の排除の為の取り組みに関する、理念やマニュアルの整備、研修を行っている。	マニュアルを作成し、委員会を設ける等、身体拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。職員間で何度も話し合いを重ね、夜間だけミトン着用の利用者がいるため、家族へ説明し、その理由や方法・経過観察を記録し、3ヶ月毎に見直しを行っている。状況が改善すれば、終了する姿勢で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い、質の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度等の研修を行っている。判断能力に障害が見られた場合、対応や立会人を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の受け入れや退居の基準を記載した契約書等で十分に説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とコミュニケーションを図りながら、意見や不満等を出せるように対応している。意見を上手く表わせない利用者に対しては、利用者の言動や表情等から察知するように取り組んでいる。また、家族の面会時は近況を報告しながら、要望や意見を聞くようにしている。	職員は利用者とコミュニケーションを図り、意見等を把握するように努めている。上手く言い表せない利用者は言動を十分に観察し、把握するように努めている。また、面会時や利用料の支払い時に、利用者の暮らしぶりや健康状態等を家族へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングにて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の異動がなく、職員は業務の中で日常的に気づいた事を話し、全職員で共有して、改善に向けて取り組む体制となっている。職員の意見や必要物品の購入等は上司に報告し、検討しているほか、職員の勤務体制にも十分に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。労働基準法に伴って、職員の労働条件を整えている。また、就業規則はいつでも見れる場所に置いてあり、守られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量や経験に応じた研修を定期的に受講している。研修の際は日々のケアに支障をきたさないよう、勤務体制に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協議会に加入し、同業者との交流や連携の機会を確保している。また、五戸地域ケア会議や五戸地域介護支援専門員連携協議会に加入し、地域の同業者との交流や勉強会、情報交換等を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族の希望を踏まえ、介護計画書を作成し、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な事、要望等、ニーズに合わせた介護計画の作成により、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としている支援の把握と見極め、施設生活の受容がスムーズに行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを多く持ち、不安の無い、穏やかな精神状態となれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態や生活状況等について定期的な連絡のほか、変化があった時は迅速に家族へ連絡し、利用者を支えていく関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方等の来訪により、淋しい心情とならないように努めている。	友人や親戚からの電話、手紙を取り次ぐ等の支援を行っている。お墓参りや催し物の見物等は家族の協力を得ながら、これまでの習慣を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い友達関係を築き、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を、利用者と家族に示している。必要に応じて、家族の相談に応じる等、これまで築いてきた利用者や家族との関係を継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握、尊重に努め、困難な場合は利用者の決定を尊重して対応している。	職員は利用者の日常を十分に観察し、ストレスや利用者同士の不満等を察知できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや聞き取りにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状態、利用者の力量の把握に努め、充実した日々の生活支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族との話し合いにより、課題とケア、必要な関係等、より良い暮らしができるように、意見やアイデアを反映させた介護計画の作成に努めている。	利用者や家族の意見を聞き、日常の会話や変化等、気がついた事を職員間で十分に話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しを行っているほか、変化がある時には随時、見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づき、工夫をファイルに記録・記入して情報を共有しているほか、ミーティングにおいて実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に応じ、既存のサービスに捉われない支援やサービスの多機能化ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がより安心して暮らせるために、警察署や消防署、自治会長等から協力を得られるよう、働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者毎の主治医や家族、その他の緊急連絡先を記載したファイルがある。また、緊急時の対応と連携の体制ができています。	これまでの受診状況を把握し、定期受診は必要事項を記入した書面を持参して、家族が受診介助を行っている。車椅子の方は送迎と受付を職員が行い、急変時は職員が受診介助を行っている。また、受診後に買い物をする等、家族と過ごす時間が楽しみとなっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置しており、日常の健康管理を行っている。また、24時間いつでも連絡が取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は病院関係者との情報交換や相談に努め、情報を把握し、スムーズに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について、ホームとしての方針を明確にしており、ホームとして対応が可能な事や困難な事、不安な事等について、職員間で話し合う体制を整えている。また、利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら、支援していく体制も整えている。	重度化や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしている。往診医を確保できないため、看取りは行わず、重度化した場合は利用者や家族の意向を踏まえて医療機関と連携を図り、支援する体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生等、緊急時の対応に関するマニュアルや連携体制の一覧表がある。また、対応に関する研修と訓練の実施がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員と利用者が一緒に定期的な避難訓練を行っている。災害発生時に備え、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品等を用意している。	年2回、夜間想定も含めて職員と利用者が一緒に避難訓練を行っている。災害時の対応について、警察署や消防署等から協力を得られるように働きかけている。また、災害発生時に備えて3日分の飲料水や食料品、トイレ、紙オムツ、ストーブ等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つける言動や言葉かけ、対応をしないよう、勉強会等で常に質の向上を図っている。	利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応についてマニュアルを作成し、勉強会を行う等、職員は理解を深めており、職場体験や外部の人を受け入れる際には個人情報について説明を行っている。また、利用者への声かけや対応について、ホーム全体で日々確認し、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の決定に基づき、思い通りに満足できる生活を送れるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、その人に寄り添って、希望や満足度を得られるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりのある身だしなみへの支援や、身だしなみを気にかけない方へは声かけ等で容整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みに応じ、味付け等の配慮に努めている。また、利用者の力量に応じて準備や片付けを手伝っていただいている。	職員が交代で献立作成と調理を担当しており、バラエティーに富んだ食事を提供し、行事食や弁当、パイキング等も取り入れて、利用者の楽しみとなっている。また、厨房はガラス張り入室は専用スリッパに履き替える等、衛生面にも十分に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスや水分量等を記録し、栄養バランスの状況の把握に努め、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔状態の把握により、利用者に応じたケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄、排便のチェック・記録・把握により、利用者の機能低下防止を図り、自立に向けた支援に努めている。	排泄パターンを記録し、事前誘導をする等、自立に向けた支援を行っている。パンツ型紙オムツや尿取りパッドをトイレ等へ流してしまう方がいるため、大容量吸収の失禁用綿パンツを探して購入し、解決する等、ケア用品の使用について随時、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取と調理を工夫している。また、運動量を増加させ、スムーズな排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	体調等に合わせ、利用者の希望に沿えるように配慮し、満足できる入浴に努めている。	1ヶ所の浴室を2ユニットの利用者が使用し、1日6名ずつ入浴を対応して、週2回は入浴できるようにしている。入浴したくない方へは、時間や日時をずらして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望する時間の就床により、安心して熟睡できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等、利用者のファイルに綴じて閲覧でき、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存機能や持っている力の把握により、力を活かした役割や軽作業等で気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や協力者の力を借りて、外出で気分転換をし、利用者の満足が得られるように支援している。	利用者が気分転換を図れるよう、状態に合わせた外出支援を行っている。美味しいジェラードを食べに七戸まで出かけた。十和田官庁街の花見、サクランボ祭り等へ出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、利用者が金銭管理できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の力量に応じて、電話や手紙等、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品等、家庭的な雰囲気を保てるように配慮している。テレビや音楽等の音量は適切であり、日差しや照明等、室内の明るさも適当である。また、季節を感じることもできる工夫を行っている。	ホールの中央にホールがあり、面会時にくつろげる和室も用意している。利用者はホールで過ごすことが多く、トラブルの無いようにソファの配置も工夫している。職員手作りの干支の作品や手芸作品を飾り、家庭的な雰囲気となっているほか、廊下に行事の写真を多く掲示し、回想法に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で囲んでできるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた愛用の物等、馴染みの物を持って来てもらうよう、家族へ積極的に働きかけている。利用者の意向を確認しながら、ポスターや写真の掲示、創作物の掲示等、居室づくりを行っている。	テレビや写真、位牌、化粧品、馴染みの寝具等、これまで使用していた物を持ち込んでいる。また、安全に配慮し、利用者に合わせて家具の配置を工夫しているほか、夜間ポータブルトイレ使用の方でも、日中は居室には置かずに片付け、心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や廊下、トイレ等に手すりを設置し、バリアフリー化する等、移動時に危険回避ができるように努めている。		